

# あなたは、これからどうしたら地球環境が救われるか？ 環境保全をすすめていくための手段や手法は どんなことが考えられますか？



みんなで仲良く  
行動しようネ



第一回「環境教育指導者養成実践講座」  
を受講している12名に聞きました。  
(受講者は20名)50音順



東 伸吉さん (阿児町)

仲間たちと公園内で自然観察しながら清掃活動をした。自然に返らない物がたくさん落ちています。中でも発砲スチロールは、だんだん風化し、小さくなりそれが海へと流れて行き魚たちがエサと

間違え食べ、それを我々が食べるなんて…。

このような現実を知るためにも、年一度住民がごみの収集活動をする町条例を決めれば、ごみ拾いの大変さが解るでしょう。その時に地域の有料ごみ袋をプレゼントする方法は、道端のごみもなくなるかな。



岡本 忠佳さん (伊勢市)

自分の住む身近な自然をよく観察し、環境の変化を敏感に感じとり、保護をすることが大切だと考えます。特に、町内会の活動に積極的にいかわり、環境学習情報センターで体得した知識、技能をフルに活用したいです。

原点は家ですね。キッチン・風呂・トイレ・浄化装置・ごみ処理・家の庭・畑・田んぼなど、良く考えて、地域の問題解決へと発展させることが、環境保全のための第一ステップであると確信しています。



小川 洋さん (鈴鹿市)

“土”にインタビューしてみたら、『長い間、化学漬けで働かされ、時には急に休止命令が出る。休止しても、レンゲも有機肥料も与えてくれない。体温も下がって行くばかり。』

ミミズやもっと小さな仲間の声も何も聞こえない…。経済危機のまっ只中にも飽食の時代、「食」と言う字のついた残渣の山。この残渣を皆の力で、土の香りにする、生き物が喜ぶ堆肥を作り、弱りきった“土”をよみがえらせようではありませんか。



坂本 剛子さん (伊勢市)

自然の中にでかけよう。気持ちがよくて元気がでくる不思議な力の宝庫。生命の循環を実感できる場所。そして、「まち歩き」をしよう。ありふれた風景の中に宝物や物語が。まちをつかってきた先人たちの営みや努力があつて今があることに気づかされ、地域観が大きく変わる。

環境を守るのは、特別な人ではなく私たちひとりひとりだ。



大東 満希子さん (桑名市)

やはり、政府がビジョンを持ち、仕組みを作っていくことが一番必要なことだと思います。でも、環境保全活動、環境教育推進法もできたので、子ども向けの環境学習

を徹底して、環境に対する意識の高い子どもを育てることが大切だと思います。学習を進めながら大人たちへと広げていくことも可能ではないでしょうか。



高橋 正さん (鈴鹿市)

少子高齢化社会 人と人のつながりがますます希薄になってゆく。子供達をとりまく社会状況は深刻である。

学校は 総合学習の時間を導入、狙いは生きる力。求められる・地域の絆・温故知新(古きを知って未来を創る)住み慣れた地域で 安全安心人と自然にやさしい やすらぎのまちづくり 未来への夢を描いて 紙芝居屋 GO!